

卒業生・在校生が体験したGLIの取り組み

世界に通用する人材を育成するGLIの取り組みに力を入れている飯塚高校。その経験と成果を在校生・卒業生が熱く語ってくれました。

特別進学コース(令和3年度卒業)
立命館大学法学部在学
フリディッシュコロンビア大学留学内定

山本 雅子

特進グローバルコース

永井 南海

特進グローバルコース 2年

アイシャ・ロドリゲス

特進グローバルコース 1年

笹川 大征

グローバル教育プログラムや留学経験などの実践的な英語教育で、
生きた英会話を学ぶことができました。

【山本OG】私は令和3年度の普通科特進コースの卒業生で、現在は立命館大学文学部法学科英語副専攻に在籍しています。高校時代はコロナ禍で飯塚高校のグローバル教育プログラムの一環である交換留学プログラムが実施されなかったため、日本にいながらに英語力を伸ばすかを考えてがんばりました。3年生の永井南海さんはタイ王国へ留学されたんですね。

【永井】選択肢として大韓民国とタイ王国がありましたが、新しく姉妹校になったタイのインターキッズ・バイリンガル・スクールは英語で授業を受けられるので、英語の勉強になると思いタイに決めました。10日間の短期留学でしたが、将来は英語を含め、いろいろな言語を使って仕事をしたいという思いが強くなりました。今のところ将来の夢はキャビンアテンダントです。

【山本OG】私も福岡県の私学協会のプログラムでタイに短期留学した経験があります。その時、スラム街で教育に携わっている団体のお話を聞く機会があり、ビジネスで教育に関することをやってみようと思い、将来自分がしたいことや英語を生かしながら何が出来るかを考えるきっかけになりました。そして、スラム街を見て感じたこととSDGsをテーマに出場した英語のスピーチ大会で優勝することもできて、とても良い経験になりました。永井さんも英語のスピーチ大会で優勝されたと聞きました。

【永井】「笑顔が一番大事」というテーマでしたが、生活していて「笑顔でいたら健康になれる」というようなことはあまり意識していませんが、スピーチをしたことで考え方や文化など、自分の知らないことを知ることができて、人前で話すことにも少し慣れることができました。

【山本OG】私もスピーチ大会に出場して、思っていることを言語化して、それを伝えるのはとても大事なことだと感じましたし、英語でスピーチを作るのは大変でしたが、楽しかった思い出になっています。

2年生のアイシャ・ロドリゲスさんはフィリピン人で、日本語よりも英語が得意だと聞きましたが、日本語のスピーチ大会で優秀賞を獲ったそうですね。

【アイシャ】飯塚高校に入学した時には、まさか日本語でスピーチをして賞をもらえるとは思わなかったけれど、こういった機会をいただけたことがうれしかったです。賞品までもらえてとても楽しかったです。先輩に聞きましたが、商品も少し豪華になっているんですね。



特別進学コース
(令和3年度)卒業
山本 雅子

特進グローバルコース
3年
永井 南海

特進グローバルコース
2年
アイシャ・
ロドリゲス

特進グローバルコース
1年
笹川 大征

グローバル教育プログラムの模擬国連大会参加したことは 大きな自信と経験となりました。

【山本OG】永井さんは、私の在学中にはなかったグローバル教育プログラムの「模擬国連大会」に参加されたそうですね。

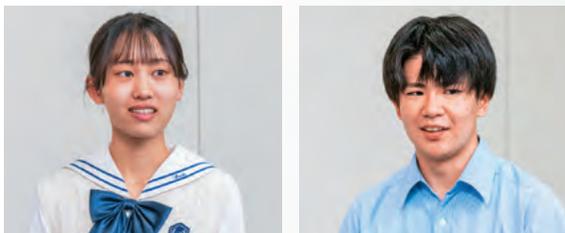
【永井】模擬国連は、特定の国の大使になりきり、紛争問題や環境問題に関わる規制、貿易などのさまざまなテーマに対し、議論のうえで決議案提出をめざす活動です。1か月ほどの準備期間があり、その国の立場で問題に対してどういう対処をするか、その時、どのような立場に立って主張をするのかというようなことを決めて大会に臨みます。私のチームが振り分けられた国は日本でしたが、社会的な難しい問題を話し合うので、調べないとわからないことが多くで大変でした。私が参加した模擬国連では自分の考えの説明は英語で話す必要があったことやそれぞれの国の立場を理解しつつ、他の国にもメリットのある主張を考えるのが難しかったです。

【山本OG】1年生の笹川大征さんは今年、東京で開催される模擬国連に飯塚高校から初めて参加すると聞きました。

【笹川】飯塚高校の代表として参加するので、とても責任を感じています。小学2年生から英語を習っていますが、発音に自信がないので不安なところもありますが、結果が出せないとしても存在感を出せるようにしたいと思っています。将来は外交官になりたいと思っています、模擬国連という大会を通して、さまざまな国の問題について語り合うのはとても有意義な経験になると思っています。また、全国の名門校からのチームも多いので、多様な意見を聞けるのが楽しみです。飯塚高校の模擬国連への参加は新しいプログラムだと思いますが、注目されていたので知っていて、外交官という夢を叶えられる場所として飯塚高校に入学しました。



【山本OG】私は英語を使える仕事をしたいと思って、実践的な英語教育をしている飯塚高校に入学しました。コロナ禍で留学はできませんでしたが、インターナショナル・トレード・チャレンジ (ITC:自分たちで商品を考え、海外で販売を行うためのプランを作り英語でプレゼンテーションを行うプログラム)に参加したことが、国際機関で働きたいと思うきっかけになりました。また、カナダのプリティッシュコロンビア大学への留学が決まりましたが、その選考過程で留学の具体的な目的や思いを、高校生の時の経験を材料に伝えることができました。経験しておくことは、後であらゆる面で役に立つと思います。アイシャさんはITCに2回参加しているそうですね。英語が得意なのでチームを助けながら大会に参加したと思いますが、どのような経験になりましたか。



【アイシャ】ほかの生徒たちを助けるのはとても楽しかったです。わからないことがあるたびに私が教えることができ、素晴らしいチームになることができたので、ITCの活動を通じて友達もできました。

【山本OG】私の場合は先生方に助けてもらうことが多かったですが、今は外国人や留学生など、英語が得意な生徒が増えて、チームで助け合えるのはいいですね。



留学生を迎え入れる教育環境により、毎日が国際交流の場に。
定期的な姉妹校とのオンライン交流など海外に触れる機会がたくさんあります。

[山本OG] 生徒全員が共通して国際交流を経験できる取り組みとして、体育祭での男子生徒のハカ(ニュージーランドの伝統演舞)の披露などが新しく始まったと聞きました。笹川さんはハカをやってみてどうでしたか。

[笹川] オンライン交流授業をしている姉妹校のニュージーランド・ワイヌイオマタ高校のハカを見させてもらって、文化を知ることができて、実際にやってみると楽しかったです。オンラインで指導を受けて、飯塚高校のオリジナルのハカを披露したのですが、文化を通じてつながることができたのがよかったです。

[永井] 私もハカを踊ってみたかったです。意外と女子も興味があるみたいですよ。

[山本OG] 新しい国際的なチャレンジや留学のプログラムが増えていたり、ニュージーランド、中国、カナダ、アメリカ、韓国、タイなどからの留学生の受け入れも増えていて、留学するためにあるようなイメージだった姉妹校・友好校などの提携校とも、全ての生徒がオンライン交流授業に関わることができて、文化でつながったりできるようになったのはとてもいいことだと思います。外国人の生徒や留学生との交流はどうですか。



[永井] 留学生と友達になって今でもSNSでつながっていますし、提携校なのでビデオコールで話せるのがとても楽しいです。模擬国連やITC、スピーチ大会など、特定の人だけ参加するプログラムがたくさんあるのもいいけれど、クラスに外国人の生徒がいたり、留学生が入ってくれたり、ネイティブの先生がいたりすると日常生活のなかに英語やいろいろな言語が入ってきて、とてもいい環境だと思います。

[アイーシャ] 私はタイに行ったことはありませんが、タイの生徒が交換留学で来て、仲良くなれたのがうれしかったです。フィリピンにいたときにもタイ人と仲良くなる機会はありませんでしたから、飯塚高校だからできた経験だと思います。それに私は英語をもっと使いたいのので、海外に行かなくても英語を使えるチャンスがたくさんあるのがうれしいです。

[笹川] 飯塚高校に入るまで同年代の外国人と会うということがありませんでした。外国人であっても日本人の友達と話すように、普通に楽しく話せることがわかりましたし、がんばって日本語を使ってくれたり、自分と話そうとしてくれることがとてもうれしいです。また、海外の提携校とのオンラインでの交流など、海外に触れる機会がたくさんあるのがいいと思います。

[山本OG] 私の経験としても飯塚高校はチャレンジしたいと思ったことをすぐにできて、サポートしてもらえる環境がありますよね。大学に入学してから驚いたことですが、飯塚高校のことをグローバル教育をしている学校だと知ってくれている人がいて、とてもうれしかったです。飯塚高校はローカルでありながら世界につながっている、挑戦できる学校だと思います。